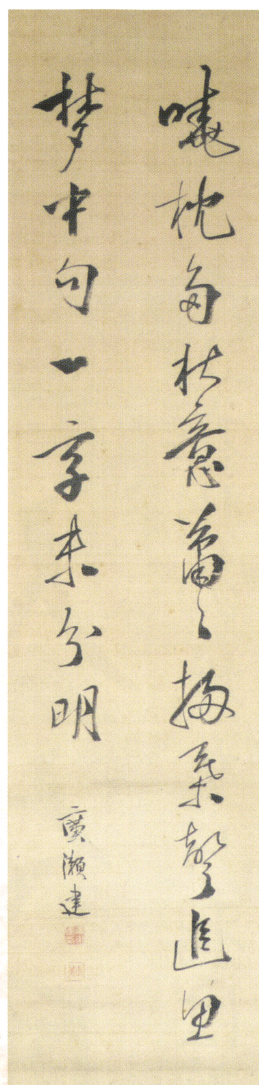


咸宜園は、江戸時代後期の私塾である。広瀬淡窓によって大分県日田に開設され、その全寮制・入退自由・身分年齢の無差別・公正な成績評価などにより、個性を重視した近代性を有する私塾として八〇年間存続し、多数の優秀な人材を輩出した。塾生数は全国から前後約四千八百人に及び、江戸時代を通じて他を圧倒する私塾であった。

開設者広瀬淡窓は、教育者であると同時に、儒学者・漢詩人として著名である。豪商の家に生まれたが、生来虚弱なため学問に志し、福岡藩の儒学者亀井南冥・昭陽父子に学んだ後、郷里で私塾を営む。文化十四（一八一七）年、独創的なシステムの咸宜園を創設し、塾生の教育の傍ら、儒学の追求・漢詩の創作を行い、同郷の文人田能村竹田を始め、京阪の頼山陽・梁川星巖・篠崎小竹・菅茶山など著名文人達と交際した。塾主は、その後、弟旭莊・養子青邨、甥の林外らに受け継がれ、明治に至っている。塾出身の著名人には、高野長英・大村益次郎・平野五岳・長三洲などがおり、幕末維新期を担う人材が育った。また、他の塾出身者達も各地で私塾を興し教育活動を行うなど、その影響は広く深く及んだ。

本展では、広瀬淡窓及び旭莊・青邨・林外の歴代塾主、淡窓・旭莊の師である亀井南冥・昭陽、友人の田能村竹田、そして門下生の中から、帆足杏雨・平野五岳・田能村直入・長三洲・吉嗣拝山・清浦奎吾の書画作品四十点を展覧し、咸宜園に集い学んだ人々の熱い息吹をご紹介します。

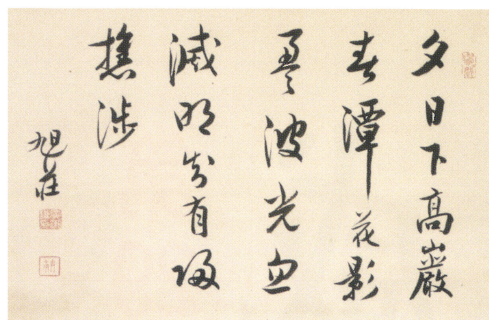


広瀬淡窓

平野五岳



田能村竹田



広瀬旭莊



小原道城書道美術館

〒060-0002

札幌市中央区北2条西2丁目41

札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）

開館：午前10時～午後5時

休館：毎週月曜日、年末年始

交通：JR札幌駅より徒歩5分、

地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

